

与によって誘導される  $\text{TNF-}\alpha$  の産生を抑制した。VT1 投与マウス群において、アノキサミンは 60 % の救命効果を示した。

## 6 腸管出血性大腸菌の産生するペロ毒素に対するアジスロマイシンの防御効果

小原 竜軌・張 慧敏・山本 達男

新潟大学医学部細菌学教室

【目的】  $\text{TNF-}\alpha$  を始めとしたサイトカインが腸管出血性大腸菌感染症の重篤化因子であることが明らかになってきた。我々は、ペロ毒素投与マウスにおいて、アジスロマイシン (AZM) によるペロ毒素のサイトカイン産生誘導の抑制と治療効果を検討した。

【材料と方法】 6 週齢の雄 C57BL/6 に経腹膜的にペロ毒素 1 (VT1)  $2.75 \mu\text{g/kg}$  of B.W. と AZM 0.38, 0.75, 1.5,  $3.0 \text{mg/kg}$  of B.W. を各々同時に投与し、一定時間後に採血した。採取した血液の血清中のサイトカイン ( $\text{TNF-}\alpha$ ,  $\text{IL-1}\beta$ ,  $\text{IL-6}$ ) 産生量を、ELISA 法で測定した。さらに 1 週間後の各群のマウスの生残数を比較した。

【結果および考察】 マウス C57BL/6 を用いた系で、AZM は VT1 投与によって誘導される  $\text{TNF-}\alpha$ ,  $\text{IL-1}\beta$ ,  $\text{IL-6}$  の産生を抑制した。VT1 投与マウス群において、AZM は 40 % の救命効果を示した。

## 7 小児より検出された *S. pneumoniae*, *H. influenzae* の薬剤感受性に関する検討

富山 道夫

とみやま医院

近年小児より検出される *S. pneumoniae*, *H. influenzae* の薬剤感受性に関して、PISP, PRSP (以下 DRSP) や BLNAR など ABPC に対する感受性が低下した株の増加が指摘され、全国的なサーベイランスも 1994 年より実施されている。今回は 1995 年と 1999 年に当院を受診した小児より検出された *S. pneumoniae* (1995 年 30 株, 1999 年 50 株), *H. influenzae* (1995 年 61 株, 1999 年

50 株) の経口抗生物質に対する薬剤感受性検査を行い、耐性菌の動向に関する検討を行った。DRSP は 1995 年 PISP 9 株 (30 %), 1999 年 PISP 27 株, PRSP 3 株計 30 株 (60 %), BLNAR は 1995 年 13 株 (21 %), 1999 年 17 株 (34 %),  $\beta$ -lactamase 産生 *H. influenzae* は 1995 年 3 株 (5 %), 1999 年 1 株 (2 %) 検出され、DRSP, BLNAR の増加傾向がみられた。DRSP に対する抗菌力が期待される CDTR の薬剤感受性は、1995 年  $\text{MIC}_{50}$   $0.25 \mu\text{g/ml}$ ,  $\text{MIC}_{90}$   $1 \mu\text{g/ml}$ , 1999 年  $\text{MIC}_{50}$   $0.5 \mu\text{g/ml}$ ,  $\text{MIC}_{90}$   $1 \mu\text{g/ml}$  と  $\text{MIC}_{50}$  が 1 管上昇し、感受性株が耐性株に推移している傾向を認めた。

## II. 特別講演

「小児科領域における市中感染症と化学療法～最近の話題～」

国立病院東京医療センター小児科

岩田 敏

## 第 40 回新潟化学療法研究会

日時 平成 13 年 5 月 12 日 (土)

午後 3 時～6 時

会場 新潟東映ホテル

## I. 一般演題

### 1 PBP2' 迅速検出法による MRSA の鑑別

中臣 康雄・杉山 純一

デンカ生研株式会社

MRSA をはじめとする多剤耐性ブドウ球菌は  $\beta$  ラクタム剤に親和性の低いペニシリン結合蛋白